

牧草と園藝



イラン，トルコの 農業および牧草遺伝資源寸描

農林省草地試験場 川 端 習太郎

I. イラン，カスピ海沿岸



(I-1) 水稲刈り取り跡への綿羊放牧 カスピ海沿岸の西部には年間雨量1500mmをこえる地域もあり、印度型水稲の栽培が盛んである。刈り取り跡には綿羊が放牧されている。路傍の野草なども綿羊に利用つくされておられ、無駄のない植物資源の活用には考えさせられることが多い。



(I-2) カスピ海沿岸の紅茶園 カスピ海沿岸の保養地ラムサーに近いラハジャンは紅茶の産地として有名である。イランの人は、まず砂糖のかたまりを口に入れ、ついで紅茶を口に含み、その味を楽しむ。



(I-3) カスピ海沿岸中部サリー近郊で見つけたオーチャードグラス この地方はオーチャードグラスの野生種である *Dactylis glomerata* ssp. *partiana* および *woronowii* の原産地とされており、この地域の *Dactylis* 属はオーチャードグラスの進化を考えるうえにとくに興味深い。



(I-4) ナウシャハル生態植物園 カスピ海沿岸中部のナウシャハルには農業天然資源省の植物園があり、樹木の収集、保存、バラなど花卉およびオレンジなど果樹の栽培、ポプラの品種比較試験、牧草飼料作物の草種比較試験などを行なっている。



(I-5) カスピ海沿岸東部のワタ園 カスピ海沿岸も東にすすむと雨量が少なくなり、ワタが多くなる。この写真のワタ園は、将来、オレンジ園にする計画のようで、ワタ園の中に一定の間隔でオレンジの幼木がみえる。この地方の農業は予想外に集約的である。



(I-6) カスピ海沿岸東部の半砂漠地帯 カスピ海沿岸もゴルガンをすぎると雨量が極端に少なくなり、塩のたまった砂漠がみられる。耐塩性の植物がかなりみられるが、今回訪問した11月下旬になると綿羊が食べないものだけが残っているようにみうけられた。